

説明書

(2024年6月23日作成)

(詳細内容)

本死亡事件において従業員の不足は関係なく、あくまでも従業員が遵守事項を守らなかった為とアルプスの森(施設長:宇津慎史)は説明している。

アルプスの森(代表:宇津慎史)は悠生君の命を奪った後も、暴行事件で宇津慎史(施設代表)、宇津雅美(児童発達支援管理責任者)、棟方日出海(従業員)が暴行事件で逮捕されるまで、一日も休まず、通常通りの運営を継続した。

この点に関し利用者が死亡したにも関わらず、そのリスクに対しての検討、及び安全対策が不十分な状況下において、なおも通常運営を継続している事がおかしいと遺族側が指摘。本指摘に関してのアルプスの森(施設長:宇津慎史)の回答は以下であった。

当社は、施設利用者に対し、本件事故の結果を報告し、再発防止に努めることは説明しております。現在、単独での誘導業務は行っておらず、職員各自が相互に注意するようにしております。

～ 省略 ～

ただ、宇津は現場レベルにおいて、各職員が決められた手順を遵守していなかったことまでは認識しておりませんでした。今後は再発防止のため、当社の各職員が、決められた手順を遵守していることを相互に確認することが重要と考えております。

(回答書[令和5年3月16日付]より一部抜粋)

すなわち従業員の数自体は十分に足りており、悠生君が命を落とす前の状況よりも、命を落とした直後から、十分な従業員数を配備し、単独での誘導は行っていないと説明している。またあくまでも、悠生君の命を奪ったのは従業員が独断で遵守事項を守らなかったためであり、各従業員が相互に注意するようにしているとのことであった。

従って、利用者が死亡してもなお一日も休まずに運営を継続した理由として、アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、悠生君の死亡直後より誘導員の配備人員数を増やし、一人当たりの業務内容も増やしたことをあげている。すなわち、人員不足は本死亡事件には関係しない事をアルプスの森(施設長:宇津慎史)は自ら述べている。